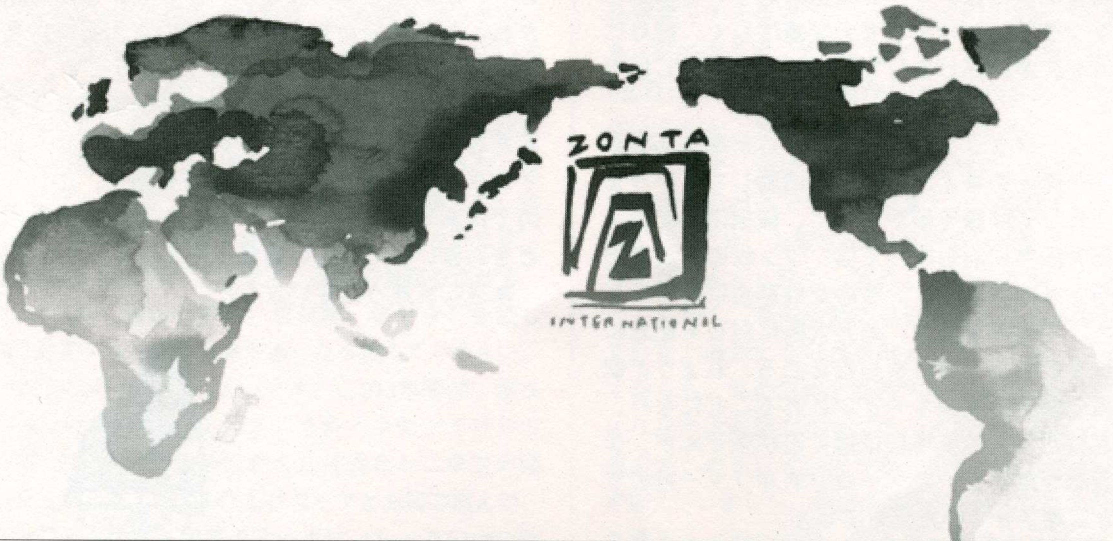
ZONTA INTERNATIONAL

OSAKA・II ZONTA CLUB

大阪IIゾンタクラブ第18号（2003年8月）



巻頭言

大阪IIゾンタクラブ会長　**徳光　正子**

母に誘われて入会してから早や10年が経過しました。深く意義もわきまえず過ごしてきた私が、順番とは言え会長の重責を荷負うことになり驚いています。この10年で時代も国際ゾンタ地区もエリアも組織の拡大と共に大きな転換期を迎えたと思います。世界の平和は揺らぎ、経済は低迷し、世相には明るいニュースもない昨今ですが、こんな時代だからこそゾンタ活動が必要なのではないかと思われます。国際クラブでありながら、残念なことにまだゾンタの知名度は低く、認識度も高くはありません。しかし、長引く不況の影響か、他のクラブや諸団体の会員数が減少してゆく傾向がある中で、最近、私は改めて地道に着実に、それぞれのクラブの特性、個性を生かしつつ世界とつながり、活動を展開しているゾンタの存在をとても頼もしく素晴らしいと感じる様になりました。

10年間の集大成として会員が一丸となって取り組んだ周年事業の地区アワード受賞の栄誉は、私達の活動にエールを送ってくれたものと思います。今年度は、卓話や学びのプログラムをふやして会員相互の理解を深め、地道な活動であっても、皆で喜んで奉仕に励んでゆけたらと願っております。会員の一人一人が重要なお仕事を持っておられる方々ですから、それぞれのお仕事を大切にしていただきながら、許された時間を積極的に参加して、ゾンタ活動を楽しんでもらいたい一私も楽しんで会長職を努めたいと思っています。

私の敬愛する渡辺和子氏がこんなことを言っておられます。「人間一人ひとりが花であって華麗に咲く花もあれば、名もない野辺の花もあり、色とりどりである。花の使命は、どこに咲くかが問題なのではなく、また他の花と競うことでもなくて、自分の花を一番美しく咲かせることにある。」と。自分に与えられた人生、自分に置かれた所で、精一杯健気に咲くこと、それがいつしか花を美しくするのだと。

私達クラブも、大阪の地で、健気に精一杯大阪の美しい黄色いバラを咲かせたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

大阪府庁にて、女性基金への寄付の感謝状をいただく

大阪Ⅱゾンタクラブ　2003年度地区アワード受賞!!

直前会長　**丸山　優子**

10周年記念事業として行った奉仕活動が認められて、名誉ある地区アワードに選ばれました。大阪Ⅱゾンタクラブの会員を代表して次のような、お礼の言葉を述べさせて頂きました。

このたび、名誉ある地区アワードに選ばれました事は私達大阪Ⅱゾンタクラブにとりまして大変喜ばしく、誇りに存じます。会員を代表いたしまして、一言お礼を申し述べたいと存じます。

私たち大阪Ⅱゾンタクラブは地域に根ざした奉仕活動がどのようにあるべきかを考え、この十年活動してまいりました。大阪市に対しては緑を増やすべく、植樹活動を続けてまいり、また大阪府に対しましては、ゾンタの方針である女性の地位向上を実践すべく大阪府女性基金に寄付をしてまいりました。十周年を迎え、地元大阪に対して記念になるような奉仕をと考えておりましたところ、ちょうど記念の年に中ノ島公会堂が改装オープンされることになり、公会堂を寄付された先人の気持には遠く及びませんが、少しでも先人の意思を継ぎたいとベーゼンドルファー社のグランドピアノを寄贈させていただきました。

ピアノの引き初めに「さとうきび畑」の歌で有名な、盲目のテノール歌手新垣勉氏のコンサートを開催させていただきました。新垣勉氏の柔らかで伸びやかな歌声と共にピアノの音色が公会堂のホールに広がっていったときの感激が今もよみがえってきます。このグランドピアノが演奏されるたびに、ゾンタの名前が末永く語り継がれ、中ノ島公会堂と共に大阪の文化芸術活動の一端を担っていくことができるよう願っております。

私達のこのような地元に対する地道な奉仕活動を認めてくださいましたゾンシャンの皆様、推薦して頂いた上田ディレクターに感謝し、この喜びを糧に、これからも小さな力ではありますが、クラブ会員一同奉仕活動に励みますことをお誓いしてお礼の言葉に変えさせて頂きます。

本当に有難うございました。

第5回エリアミーティング　於松本

会長会議に出席して

直前会長　**丸山　優子**

（2003年5月23日　PM5：00～6：30）

まず初めに、上田エリアディレクターより翌日おこなわれる会議の概要説明がありました。明日の会議はトレーニングゼミー、プライニングゼミーであり決して決議するものではなく、あくまでも、エリア4の意見として、地区大会で示すものであると説明を受けました。大阪Ⅱゾンタクラブが今回名誉ある｛地区アワード｝受賞を受け、その推薦理由として、地域のニーズに適切にこたえ、多くの人々の心に響く企画をたて、大いなる奉仕活動の成果をあげたことを説明されました。

協議事項として、26地区の3分割、地区費値上げについて、名古屋から前回の地区大会よりの継続審議であると意見が述べられ、再度26地区副ガバナー大賀恵美子さんよりなぜ分割が必要か説明を受け、分割は避けられないものであることを理解しました。分割が決まれば、日本はエリアの分割も必要ですかと、質問しましたら、まずガバナーの初めの仕事はエリアの分割であると答えられました。地区費の値上げに関しては意見がなく、このことは分割が決まり、エリアの再分割がすんでからと、私なりに理解いたしました。

大阪Ⅱが提案致した、｛ゾンタローズデー｝におけるエリア4連帯の取り組みについて、今年度エリア4有志クラブでアフガニスタンの女性教育者との交流、寄贈について誤解があるようで、バイローズ違反であると指摘を受けましたが、私達は今回のようにエリア4のゾンタローズデーを記念して、各クラブが自由に少し協力しあうことにより、大きな力となり、効果的なプログラムの達成や、広報活動が容易となり、一般の人々にゾンタの名前を認識していただき、会員の増強にもつながると思います。今後、国際ゾンタが推進するプログラムにあわせ、ローズデーに何か続けることに意味があると考え提案したのみであり、規約は守らなければ大きい組織は成り立たないと思いますが、もう少し、幅のある理解が欲しく思いました。

ビジネスセッション

久岡　眞佐代

(2003年5月24日　AM10：00～12：00)

春から初夏にかけての爽やかな新緑の松本に惹かれて、前夜の飲み会を早めに切り上げ、5月24日（土）早朝の新幹線に飛び乗ってエリアミーティングに出席しました。出席会員総数は207名、大阪Ⅱの出席会員は、丸山会長、徳光副会長、牛田、田中（茂）、田中（淑）、宮本、久岡の7名でした。

午前10時を少し過ぎて会場に入るとまもなく、大阪Ⅱの昨年12月1日の大阪市中央公会堂での10周年記念事業の成果に地区アワードが贈呈されるとのアナウンスがあり、初めて聞く私は、大変驚くと共に素直に喜びました。

ビジネスセッションの重要議題は、26地区の3分割についてでしたが、大賀副ガバナーから詳細且つ理路整然とした説明があり、「世界の中で26地区のエリア数が突出して多い」という現実を突き付けられ、フロアーからの質問も議論でなく、22クラブ・24議決のうち24名全員が賛成しました。世界の客観的状況を見ればやむを得ない結果であると思います。地区大会で議決されるまでは紆余曲折があると思いますし、仮に地区大会で可決された後は日本のエリア再編成が議題になるのは必須であり、今後も関心を寄せて行きたいと思います。

次に大阪Ⅱの丸山会長から「毎年3月8日ゾンタローズデーに各クラブが連携して奉仕活動を行ってはどうか」という意見が出され、結論として、上田エリアディレクターから、「各クラブの事情があるので有志のクラブが無理のない範囲で行ってはどうか」という意見が出されました。

長引く不況の中、会員増強は容易ではなく、奉仕活動のあり方にも変革が求められているように思います。エリア全体が連携することにより日本での「ゾンタ」の知名度を上げていきたいと思います。

ワークショップⅠ

牛田　三千子

(5月24日　PM1：00～3：00)

午前中のビジネスセッションが無事終了し、昼食をはさんで午後のワークショップが始まりました。今回は「クラブ奉仕プログラムについて」と題する大賀恵美子L・Gの基調講演と4人のスピーカー（クラブ会長）による報告です。ゾンタクラブの基本はもちろん奉仕活動がありますが、具体的にどのような活動をしたらよいかはクラブ内でもいつも迷うところです。奉仕活動先の選択や、その内容についてはそれほど十分に話し合われる機会がないのですが、毎年のイベントはこれらへ寄付する収益をあげるために催されるわけですから、奉仕先の選択は、じつは一番大切なことかも知れません。

長い経験をお持ちの大賀L・Gより
①財団を通じて国際ゾンタ奉仕事業に協力する
②クラブレベルで、国際ゾンタ奉仕事業と同じ奉仕事業をおこなう
③クラブ事業として奉仕活動をする

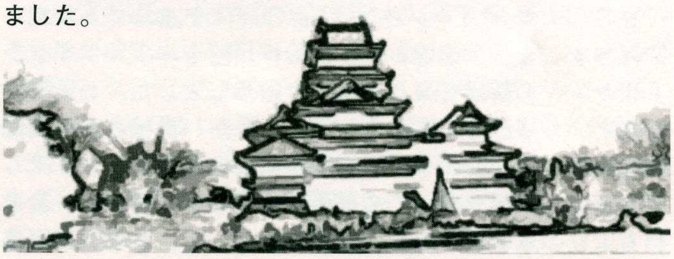
という3つの奉仕の柱をわかりやすくご説明頂きました。そのあと大阪Ⅰ、鳴門、北九州、名古屋Ⅱの各クラブの会長が具体的にどのような奉仕活動をしておられるのかをお話になりました。

私達のSOMクラブ大坂Ⅰゾンタの上田会長は、これまでの奉仕事業として血液運搬車や障害者運搬用自動車（ともにゾンタ号と命名）の贈呈などをあげられ、奉仕活動をできる身体と心に感謝してクラブが連帯して活動したいと述べられました。

鳴門ゾンタの杉本会長は、狭い地域なので収益をあげるのにも限度があるが、その地域の特色から四国巡礼出発の人達へのボランティア、交通遺児への援助などを行いたいと話されました。

北九州ゾンタの天川会長は、五市合併によってできた北九州市の各出身地の気質の違いを超えてアジアフォーラムへの参加、北九州市博覧会の折りの体力、金力、知力の結集の経験談、名古屋Ⅱの鈴木会長は、子供への虐待防止ネットワークへの支援など、4つのクラブから多くのすばらしい活動をお聞きすることができました。

私達のクラブでも、これらのクラブの活動から大いに学び、より有意義な奉仕活動を行っていきたいとの思いを強くしました。



エリアミーティング　ワークショップ第Ⅱ部とエクスカーション

コーヒーブレイク

宮本　典子

（5月24日　PM3：00～3：30）

ワークショップ第1部と第2部の間のコーヒーブレイクに、田中康夫長野県知事が駆けつけられ挨拶があった。

長野県の県庁所在地は長野市であるが、長野から東京まで新幹線で1時間40分、長野で会議してもその日の内に東京へ帰ることが出来るとあって、長野市には誰も泊まらなくなった。いわゆるバキューム現象が起こっている。その点松本市やその周辺では会議をしても8時には最終列車が出てしまうから、どうしても一泊せざるを得ず、ホテルや近郊の温泉も繁盛する。そしてそこでは自立のプロジェクトが盛んである。東京一辺倒でない独自の計画が出来る。東京には文化がない、行政は金を先にもらって年度末には使い切らなくてはならない、これでは文化は育たない。行政官の身分は安泰である。恵まれた環境には冨すれば鈍するというが、全くそのとおり。中央ばかり見ていたのでは駄目だと思っている。脱ダム宣言もそのひとつ、ダムの建設費の80％は中央のゼネコンに行く。イギリスでは100年前のデザインも充分大事にされている、たとえばウイリアム・モリスのデザイン、大阪大丸、山の上ホテル、どこかの学校、このような歴史的、美しい建物を修復しようと思うと8割は町が負担しなければならない。新しくすればほとんど国から金をもらう。こうして文化は継承されない。そんなこんなで長野県の公共事業費は後ろより2番目である。

日本では御上のすることとか、長いものには巻かれろというやりかたがよかったが、私は、知事は県民と同じ目線で、相互ということを大事にしてやっているつもり。ゾンタのボランティアの精神もそうではないか、AFTER YOU THANK YOU,ではなく IT'S MY PLEASURE、よい意味の社会貢献を・・・と5分の予定が30分大幅に時間超過でしたが楽しいコーヒーブレイクでした。

ワークショップⅡ

（5月24日　PM3：30～5：30）

ワークショップ第2部は、AMDAの若山由紀子さんとボランティアの堀川ひろ子さんのアフガニスタン、ミヤンマー、カンボジアへいらしたときのお話をスライド入りで紹介いただきました。

若山さんは若い女医さんですが、アフガニスタンの僻地でトイレもない宿舎に寝起きしながら子供達にワクチンをのませるプロジェクトや看護士（医者が居ないのでこの人達が手当にあたっている）、看護婦さんの教育をされました。看護婦といってもいわゆる産婆さんでその人達を集めるのが大変でおみやげ付きで車を出して集めるそうですが、何日かたつうちに打ち解けていろいろ話をするようになったら、プルカをとって顔を見られるようになった。するととても若い人だったり、写真もとらせてもらったりできたそうです。でもお産の時の産婦、新生児の死亡率はとても高いので、教育が必要とのことでした。

堀川さんはご主人を亡くされてから残りの人生をボランティアに捧げていらっしゃる方で、日本のアフガニスタン人のお友達がご主人を捜しにゆくのに同行。まずアフガニスタンにはいり、その後、ミヤンマー、そしてカンボジアの戦争で親を亡くした子供達への慰問にもいっておられます。口紅や、ノートや綿のタオル、子供服などエコノミー受託限度20キロと手でもてる10キロの荷物がおみやげで、お金と慰問品が出来ると出かけられるそうです。こうして政府のODAとは違う国際交流をしていらっしゃいます。その中で日本人は特別に親しみを持って迎えられる、それは原爆を落とされた国だからということだそうです。私達日本人は戦争をきちんと伝えているだろうかと思いました。

おみやげがもうなんにもなくて病院で歌（ふるさと）を歌ったら言葉もわからないのに気が付くとみんな泣いていたそうです。歌は万国共通ですね。

晩餐会とエクスカーション

（5月24日　PM6：30～　　5月25日　AM8：00～2：00）

ワークショップが終わり恒例の晩餐会は、松本ゾンタクラブの方総出で検討された地元のおいしい材料ばかりのフランス料理でした。そしてテーブルの花、座席表も地元の野の花を摘んで生けられたもの、描かれた手作りのものでした。楽しくおいしくいただきました。

翌日のエクスカーションは2台のバスを連ねて上高地まで行きました。人の混み合う前の梓川縁をカラマツやケショウヤナギの新緑を楽しみながら散歩しました。お天気は快晴というほどではありませんでしたが、奥穂高岳も西穂高岳も雲ひとつかからず手に取るように見えました。そしてお昼は、一晩かかって会員の打たれた手打ちソバ、会員持ちよりのさまざまのおつけもの、そしてこれも会員が摘んでこられたさまざまな山菜のてんぷらでした。カッパ橋のたもとのホテルの上等のケーキとコーヒーをいただいて、早めに上高地を後にしましたが、その頃には駐車場には入れないバスの列がずっと続いていてみんな早く来てよかったねと言い合いました。これこそ松本ZCの皆さんの、地元ならではの心遣いの賜物と思いました。松本の皆さんはこの計画のために全員パソコンを持ち、メイルで連絡を取り合って、準備なさったそうです。有り難うございました。

（主人が入院中でしたので5月のエリアミーティングをキャンセルしておりましたが大阪1の伊藤さんのご好意で代わりに参加させていただきました。感謝しています。）

国際ゾンタ世界大会　於スウェーデン

ヨーテボリでの国際大会に出席して

西　麗子

平成14年6月29日～7月4日迄スウェーデンのヨーテボリで開催された国際大会に大阪Ⅱゾンタクラブより1人デリゲートとして参加してきました。京都雅の小室会長さん達3人とルフトハンザで、フランクフルト迄飛びフィンランドのヘルシンキに入りました。観光を楽しんでから、バルト海クルーズで、ストックホルムに着き汽車でヨーテボリ入りしました。当地は白夜で、夜10時過ぎまで明るく、風光明媚しかし、お天気は不安定で晴れていたかと思うと突然大雨が降りだし、暑い気候が好きな私には、少々寒い所でした。食事がいまひとつでしたが、大阪Ⅰの皆様が立ててくださったお抹茶が嬉しく美味しく、1年経った今も心に残っています。

会場のヨチアタワーホテルは、広く設備の行き届いた近代ホテルです。しかしシャワーのみで、お風呂のない部屋もあり国民性を考えさせられました。全世界より多数のゾンシャンが一堂に会し連日熱心にゾンタバイローズの改定や、行動方針について討議しました。その討議形態は、大変民主的なもので理論的にも会議の運営形態としては、時間はかかるが完璧なものです。行動方針については、今迄行ってきた、ブルキナファッソの女子割礼廃止のための支援を中止し、アフガニスタンの田舎の女性の教育や自立の支援に変更が提起されました。これに関しても、賛否両論徹底的に議論し採決をとり、提案が可決されました。私はこのような討論形態に慣れていないのと、言葉の問題でなかなか討論に参加できませんでしたが興味深く拝聴しました。特記すべきは、ここ数年間、世界のゾンシャン達を震撼させていた、我々26地区の問題に関して、調査委員会の詳細な調査結果（領収書や帳簿も含む）の報告がなされ、原　菊子元ガバナーは不正を行っていないとの結論がだされた事です。現代日本の魔女狩りの餌食となった原さんは晴れて汚名を返上し、彼女の名誉は回復されました。原さんおめでとう!

この会議中私の一番心に残ったのは基調講演で、オープニングセレモニーの時の、元駐米オーストラリア大使のペニーウェンズレイ外交官による講演です。彼女は、ネパールの女性は5人に4人は文盲であり、インド等の貧困女性はHIVに罹患してる等と世界の女性の悲惨さを述べられました。そしてマザーグースの歌を引き合いに出され、マフェットちゃんは、蜘蛛から逃げたけど、我々ゾンシャンは勇気をもって蜘蛛（悪いもの、間違っているもの、恐ろしいもの、不合理なもの、貧困）から逃げず戦って行きましょうと力強いエールを送られました。私は大きな蜘蛛と戦ったメアリーマギー元国際会長に大きな拍手を送りたいと思います。私も蜘蛛にまけずに立ち向かっていこうと決意を新たにした次第です。

鳴門ゾンタクラブ設立25周年記念式典　出席報告

出席者：牛田・川村・田中淑・辻・徳光・内藤・西・田中茂
日時：平成15年4月12日

田中　茂美

小雨の降りしきる中、美しい明石海峡大橋、鳴門海峡大橋を渡り、まだ　所々に山桜を眺めながら式典会場を目指した。鳴門市の大塚国際美術館は何度訪れてもスケールの大きさと見飽きる事の無い美しさに圧倒され、世界中の名画に出会える不思議な21世紀型の美術館である。精微を極めたセラミックアートの殿堂は藝術の振興と共に地元の産業振興（セラミック）にも大きく貢献しているものであり、創立者の大塚家の鳴門を愛する心意気と財力とに毎度の事ながら感嘆する。今回の式典はバチカン美術館の実物より大きいシスチーナ礼拝堂ホールにて約150名が日本各地より参加し厳かに行われた。鳴門市長、鳴門教育大学学長、他御来賓の方々の御祝辞の後、大塚元エリアディレクターらのご挨拶があった。

鳴門ゾンタクラブは長きに恒って文化・教育の振興促進に貢献して来られ、特に外国人女子留学生の支援や児童絵画コンクール主催を会員らの手作りで行って来られた。絵画コンクールはゾンタ賞を設け会員らが直接参加作品を評価し意見をまとめて賞を授けておられ、地元の児童の藝術への造詣への第1歩となり励みにも成っているとのことであった。大変な労力を要する事とお察しすると共に単なる寄贈や華やかな行事に流される事の多いゾンタ事業のあり方を反省させられた思いがした。また、鳴門ゾンタクラブは昨今クラブ維持が何かと困難な時勢にあっても会員40数名の大所帯を保っておられ、しかも、チャーターメンバーが大半を占めておられる事に驚くと共に感心させられた。これは、一重に会員の方々がお互いに和と協調を大切にされ地道な努力をひたむきにされてて来られた賜物であろう。祝宴はルネッサンスリゾート鳴門にて行われ、誠に心のこもった温かいおもてなしを受けた。

当日、大坂Ⅱゾンタクラブ一同はゴルフ組と観光組に分かれて宿泊し、観光組はルネッサンスリゾート鳴門で夜に朝に優しく柔らかい温泉湯を堪能させて頂いた。

翌日、観光組は、渦潮の道（渦潮船と違う真上からの迫力ある渦潮見学）・四国八十八か所巡り1番・2番札所（巡礼の旅が鳴門に始まる事を知った。）・会員の方の心尽くしの昼食・板東俘虜収容所跡（ドイツ人俘虜と地元住民の心温まる交流の地）・賀川豊彦記念館（生協や農協等の協同組合設立の基礎を創った社会運動家）・大谷焼窯元にて絵付け（後で良い記念になった）と見所が盛り沢山で楽しく濃い1日を過ごさせて頂いた。この間鳴門ゾンタクラブの方々が付き添って下さり細やかなお心遣いと手厚いおもてなしを賜り感謝しています。鳴門の優しく温かい土地柄と会員の皆様の地元を愛する誇りに裏付けされた力強い優しさが何よりも印象的で素敵な1泊2日の旅でした。ありがとうございました。

＝女性と健康＝『女性に多い顎関節症ー病気と正しくつき合うために』

企画委員長　西　麗子

＝講演＝　大阪大学　大学院歯学研究所　顎口腔病因病態制御学講座　　助教授　松本　憲氏

2月1日（土）薬業年金会館にて恒例の女性と健康講座が開催されました。まだ寒さの厳しい中にもかかわらず多数の方が参加され和やかな雰囲気のなか講演が行われました。松本　憲先生は昭和48年に大阪大学歯学部を卒業、同52年大学院終了、56年島根医科大学歯科口腔外科助教授、61年にはベルリンに留学されています。平成元年には、大阪大学第二口腔外科講師、同10年に助教授に就任され現在に至っておられます。（なお平成12年に教室の呼称が、上記の様に改正されました。）ご専門は、口腔外科領域の骨と関節の病気、痛みの研究。日本顎関節学会評議員、日本薬理学界評議員等多方面のご活躍中です。以下に先生のご講演の内容を要約します。

★顎関節症って何？

顎関節症とは、①動かすと痛みがある②口が開かない③口を開けると音がするという3つの症状が見られるもので、女性に多い疾患である（男：女＝1：3）。その原因や何故女性に多いかはわかっておらず、マスコミなどで誤った報道がなされている。副症状として、頭痛、耳鳴り、眼痛、めまい、悪心などがある。韓国、米国、北欧に多くモンゴルでは殆どみられない。

★どんな検査が必要

顎関節症の分類は1型：筋肉に病気のあるもの　2型：関節包に慢性炎症のあるもの　3型：関節円板に異常のあるもの　4型：骨に異常のあるもの　5型：その他（夜に起こる精神的なもの等）の5タイプがある。どのようにおかしいかをチェックする検査には、①レントゲン検査②MR検査がある。噛合せのチェックや関節鏡検査は以前は施行したが、近年は有用とはみなされないため施工しない。

★治りますか？　治るってどういう事？

放置したらどうなるかを調べた所、2年～2.5年経つと何と患者の7割で「痛い」「口が開かない」といった症状がなくなる事が判った。しかし組織の変形や変化は残ったままである。困った症状が取れれば治ったとみなしてよい。治療は変形した組織を元に戻すためになされるのではない。医師のなかにもその所が良く判っておらず、余計な手術を行うものもいる。先生の講演を聴いて眼から鱗が取れたという医師が多い。（変形した組織を元に戻そうとするのは、医師にも患者にもとてもしんどい仕事で労のみ多く功はない）

★治療はどうするの？

薬剤療法と手術療法、保存療法がある。薬剤療法には①鎮痛剤②筋弛緩薬（プラセボーに負ける）③抗神経薬（副作用として眠気がある）があり、適宜用いられる。手術療法は、2年以上経っても治らないものや高い治療効果が期待されるもののみに行われる。治療率は70％である。癒着があっても手術せずとも顎関節の運動（リハビリ）で3週間で有意に改善する事が判り、最近は手術件数が減少そてきている。他に保存療法として、低周波電気治療、レーザー治療がある。

★大切な顎のストレッチ運動

本症の原因は最初に述べたように不明ではあるが、ストレスが誘因である事は間違いない。そして顎の筋肉を使用しない事で、症状が悪化すると考えられている。予防や治療促進のために大切なのが、顎のストレッチ運動である。皆さん是非毎日下記の運動をやりましょう！
①下顎を前につきだす。
②口を大きく開ける。
③歯列を大きく左右に動かす。

以上顎関節症に関して、非常に判りやすくご講演いただきました。本日松本先生は、顎関節症の最良の予防、治療は顎のストレッチ運動であると看破されました。先生の治療方針は、治療効果があるとの証拠（evidence）のないものは、いっさい排除、また患者さんの利益を優先したもので、まさに名医と呼ぶのにふさわしいと感服しました。「医は仁術」です。医療界に経済市場原理が導入されれば、利潤を多くあげる医師が高く評価され、その結果医師も不要な手術をもせざるを得なくなります。そのような時代の到来が目前に迫ってきている昨今です。松本先生のような、良心的な先生のご活躍を心より祈念しています。

ともだちの わ

リレー・エッセイ

“私の趣味”

内藤　恵子

ゾンタに入会させて頂いて、2年たち、会員の方々も、優しくうち解けてくださり、楽しく参加しています。今回は急な代筆で、私の趣味を書かせてもらいます。1番はガラス工芸で、10年ほど週１回豊中のケイズハウスという教室に通っています。サンドブラストという技法で、ガラス器にテープを貼って、図案を描き、カッターで図案を切り取り、砂を吹き付けます。テープの貼った所は削られないので、これを繰り返していろんな図案を表現します。図案は自分で考えるので、そこが楽しかったり辛かったりです。疲れていると何も思い浮かびません。色を何色も使った器は、その色で何を描きたいか、また悩みます。ガラス工場を1日借り切り職人さんを使って、先生が、花器、ランプなどを3回色をかけて作ってくださいます。その材料で作るとガレ風の器になります。図案の資料を集めて、美術書、デザイン集、童話の挿絵、包装紙、切手などを捜しています。何か図案になりそうな物があったら教えてください。年賀状にガラス工芸写真を使っています。この3年間は、ボタニカルアートのバラの花瓶、エルメススカーフのアイリスでランプ、田辺聖子百人一首の挿絵から八重桜を十二単衣の姫のお皿に使いました。百人一首の図案はコップとお皿の揃えで、殿と姫3客づつでみんな違う図案です。ボビンレースの会に飾ったら、外人さんに是非ゆずって欲しいといわれました。それというのも、和風のガラス器が少ないからだと思います。最近ガラス製造会社も次々倒産して、無地の器が減ってきました。中国から安い2色の器も入ってきます。ガラス工芸のおかげで本をさがしに行ったり、美術館に行ったり、広がっていくのが楽しいです。人間国宝田畑喜八の着物下絵図譜、ミュシャ装飾資料集、バカラ、ガレ、ドームなどとても重くて持ち運べない本を見つけたときの喜びはひとしおです。（最近、活字中毒？）日本の意匠全15巻別冊6巻も京都書院の出版で会社がつぶれ手に入らなかったのですが、古本屋で見つけました。本を探すのも趣味です。童話も挿絵のきれいなのを集めているので、海外にいったら、必ず買ってきます。メソポタミア美術館でもすごく良いのがあったのですが、すごく重くて、持って帰れませんでした。

2番目には、犬です。東京の大学時代をのぞいて、いつも、犬がいました。息子が大学で家をでてからはとくに、そばにいてくれます。今はハイランドテリア、ホワイティです。その前は柴犬で21年で亡くなりました。生後1ヶ月で5匹の中から選んだ犬です。犬屋さんは4足で嫌われます、と云いましたが、息子が選んだし私も、気にしないので飼うことにしました。とても賢く、予防接種以外獣医さんにもお世話になりませんでした。老衰になり後ろ足が立たなくなって寝たきりになってからも、私の愛情と介護で半年暮らしました。毎朝、赤ちゃん用の沐浴剤で体を拭き、イチジク浣腸をして、赤ちゃん用のおしめをしていました。足が立たないので、餌も水も私が与えていました。最後は神様がお迎えにきたら逝っていいよ、と思えるようになり、眠るようになくなりました。私のために最後の半年、頑張ってくれました。現在、87、84才の両親と3人で暮らしていますが犬がいると和やかです。先日も、優秀な息子さんを亡くされ、御夫婦で落ち込んでおられたので、犬を飼って散歩にいくことをお勧めしたら、次の日にダルメシアンを飼って元気になったと2年振りに来院されました。犬のお好きな方、お互いのペット自慢をしましょう。またの機会に花作り、刺繍、縫い物などお話します。

白骨温泉

田中　淑子

松本エリアミーティングでワークショップⅠが終わり、後半に入ろうとする直前でした。スケジュールの都合で予定を繰り上げ、長野県知事田中康夫氏が御来場になりましたが、私達は知事のお話を背に受けつつも、チャーターしていたタクシーに乗り込んだのです。目的地は白骨温泉。

中里介山の「大菩薩峠」の小説中の名称がそのまま一般に使われるようになった温泉。一度は行ってみたいと思っていたのが今回実現したので楽しみワクワク！

田中康夫知事のお話も後ろ髪を引きましたが、バッサリと振り切って、皆ニコニコと一路白骨温泉に向かったのです。

車中移り行く景色を見ながらおしゃべりをし、おしゃべりをしながら景色を見る。車の窓を額縁に、みどりの美しい山並み。みどりの中に長く白い線を引いたような滝。山の頂きに雪が残っているのを全員で感激の声をあげ、右へ左へカーブする山道では子供のように笑いはしゃぎ、どんどん高揚して行くようで、エリアミーティングの事はどこかへ忘れてしまい、一時間四十分ほどの道中が、アッという間に過ぎて行き、お目当ての旅館に到着したのは言うまでもありません。

白骨温泉は「大菩薩峠」より以前から、大桶銀山の採掘工たちの傷ついた身体を癒した事で、湯場が賑わったそうですが、乳白色のお湯と深いみどりに囲まれた山峡の温泉は疲れた体と心をリフレッシュさせてくれました。

来て良かった！と実感。おいしい食事を頂き、温泉につかりと満足！満足！

明日は高山見物。おいしい昼食が楽しみと、あれやこれやとおしゃべりが続き、時間の経つのも忘れ、夜更かしをしてしまったのでありま〜す！

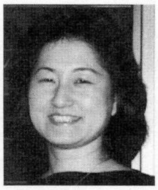
10周年記念式典開催の経過

田中　茂美

平成12年6月頃、当時私は、長期計画委員長を仰せつかっており、10周年記念をどのように催すかが気に掛かっておりました。その頃、庁内広報で平成14年9〜10月に中ノ島公会堂がリニューアルオープンする事を知りました。中ノ島公会堂は、大阪を代表する名建築物でもあります。10周年記念はホテル等でなく、『記念』になる場所で寄贈も末永く多くの人々にゾンタの名と共に愛される物が良いと、かねてより思っておりましたので、よい機会と思い、7月頃の例会で、提案させて頂きました。皆様の賛同を頂き、早速申し込み方、時期の設定、寄贈としてどのような物が求められるか、飲食パーティは可能か等につき当時、大阪市教育委員会内の設立準備室の課長係にお伺いを致しました。『平成14年9〜10月末に完成予定、寄贈して頂く金額にもよるが、椅子でもピアノでも、現金でも何でも有り難いがインテリア類は80年前の物を再現するので要らない。壁画の修復にお金がかかる。パーティのケータリングは可能。公の予約は約1年前から受付の予定』とのお話でした。9月の例会でその旨を報告し、ひとまず、オープン即の土か日に音楽会と小宴を行い、何らかの寄贈を公会堂に行いたい旨を先方に告げました。委細は、13年春〜秋にお願いしますとの事で、仮予約とさせて頂きました。

10周年事業準備経過報告（例会決定事項）

記録書記　萩原　謡子



2002年

2月　案として新垣勉氏のチャリティーコンサート
　　実行委員長徳光会員を中心に記念式典案をつくる
3月　記念式典とコンサートを一本にまとめること
　　会場…大阪市中央公会堂
　　新垣氏と交渉スタート
5月　大阪市中央公会堂資料の検討
　　コンサート　新垣氏に決定
　　日付 12月1日に決定　寄付グランドピアノ（予算500万円）
6月　予算案、事業内容、タイムスケジュール、役割分担を検討
　　会場　大阪市中央公会堂中ホール（収容500名）
　　チケット料金、ゾンシャンその他ゲストの料金（登録費）決定
　　チケット販売数 400〜500 とする
　　寄贈ピアノを萩原会員が弾き初める
　　来賓は府知事、市長、公会堂館長、ガバナーなど10名
　　予算案承認
　　目の不自由な方の招待は寄附となる
　　10周年記念誌は2003年2〜3月に発行する
　　＊知事・市長など招待者に依頼挨拶にゆく
　　＊コンサートチケット・チラシ作成スタート
　　＊案内状作成スタート
7月　パンフレット、チケット、参加申込用紙、挨拶状などの見本に関する修正案
　　役割、担当の調整
　　プログラム原案を作る
　　ピアノはベーゼンドルファーに決定
8月　＊招待者に招待状、依頼状作成
　　＊チケット、チラシ配布、販売はじめる
　　＊案内状発送　＊登録受け入れ体勢できる
　　＊プログラム、役割検討
9月　各クラブへのチケット、招待状発送
　　登録チケットの用意
　　来賓の予定者
　　お土産お菓子の試食
　　ピアノ演奏、歌 ゾンタソング（アレンジ）河村会員、萩原会員
　　祝宴…歌とピアノによるBGM
　　コンサート招待者の枠は50名とする
　　＊招待者リスト発送　＊登録受け付け　＊9/18公会堂見学
10月　役割分担の確認
　　会場設定について
　　目録贈呈方法確認
　　プログラム及び役割の確認
　　招待者リストの集計
　　20日申込締切
11月　ゾンシャン来賓の追加
　　お土産決定
　　マスコミにゾンタのPRを依頼
　　一般向けゾンタの紹介パンフレット作成
　　座席表作成
　　予算の検討
　　保険をかける
　　＊記念式典、祝宴、コンサートのプログラム印刷
　　＊11/26ピアノ公会堂に搬入、打ち合わせ

＊はその月に行ったこと

役割分担

2002.11.14作成

	役割	担当者（＊印は主任）
1	登録	＊幡山
2	受付（9:30式典　12:30コンサート）	＊久岡　内藤　幡山
3	来賓.会員リボン作成	＊川村　久岡
4	写真係	＊楠本　内藤　宮本
5	会場係	＊田中淑子　田中茂美　武内
6	誘導係	＊中塚　武内
7	アーティスト係　お迎え、接待、誘導、連絡、見送り、タクシー手配	＊西村　萩原
8	来賓.VIP対応　外部VIP、ゾンタ関係	＊西　丸山　川村　宮本　辻
9	その他招待者対応　ライトハウスなど	＊辻　川村
10	CD販売手伝い	＊甲田
11	タイムキーパー	＊徳光
12	式典プログラム作成・印刷	＊牛田　川村　辻　幡山　丸山　宮本
13	コンサートプログラム作成	＊河村　丸山　内藤　久岡
14	交通費.チケット手配	＊久岡
15	マスコミ対応	＊河村
16	式典.10周年歩み報告	＊宮本
17	祝宴・祝演奏	＊河村　萩原
18	BGM	＊萩原
19	贈呈目録の準備	＊笠置
20	招待者の出欠確認	＊西
21	祝宴の座席	＊西　徳光
22	前日会場チェック	＊会場係
23	看板準備	＊久岡　田中茂美
24	記念おみやげ品	＊田中淑子
25	新垣氏へ贈答品	＊田中淑子
	式典:司会進行 祝宴:司会進行 コンサート:司会進行	＊西　中塚 ＊牛田　田中茂美 ＊徳光
	当日の打ち上げ 10周年記念誌作成 10周年記念誌資料提供	＊甲田　親睦委員会 ＊宮本　広報委員会委員　歴代会長 歴代会長

編　集　後　記

10周年記念誌を作成したため、広報誌は、1年ぶりの発行となりました。皆で力をあわせて行った記念行事は、思いがけず地区アワードを受賞という吉報となりました。記念行事の内容は記念誌にくわしくのっていますので、この広報では割愛し、経過だけ入れました。発行が遅れ申しわけございませんでした。では皆様、よい夏休みを!!

大阪Ⅱゾンタクラブ　2003年8月1日
2002〜2003年 広報委員長
宮本　典子